

7. 中間小括—史学史のなかの「歴史総合」

2025.11.21. 大橋 幸泰

はじめに

本日は、「歴史総合」をめぐる議論の時間／ここまでの講義をふまえて、以下の問題について議論しよう

1. 歴史学習における適切な問

「歴史総合」の登場／第二次大戦後の歴史学と歴史教育の矛盾を克服することが目標

*戦後の歴史教科書／歴史学の成果を歴史教育に反映させることを企図

→二つの問題点：①国家主義による分断の策動、②知識偏重傾向

*特に②は、歴史教育に対する啓蒙という歴史学の態度という問題も含む

→そこで、どのような問を立てることが適切か

*史実と異なる問を立てて歴史を考えることは有効か or 客観的な問を立てることは可能か

2. 横のつながりと比較

国民国家の単位で物事を発想する方法／近代の産物

→その方法を前近代史の考察に持ち込まない／「日本史探究」・「世界史探究」の前近代学習へ

(1)横のつながり

近現代史を考察する場合／横のつながりを常に意識する

*ただし、課題も存在

a. 国民国家を越えないミクロな歴史を軽視する可能性

b. 国民国家を単位とする発想をかえって再生産する可能性

→これらを克服するにはどうすればよいか

(2)比較

国民国家の形成過程・展開を比較する／共通点と差異

a. 共通点／たとえば、国民国家の内にも外にも差別対象を創出

b. 差異／たとえば、ボトムアップかトップダウンか

→これらは、現代にどのような影響を与えているか

3. 通史とテーマ史

「歴史総合」には通史の発想が弱い

*大きなキーワードとして「近代化」・「大衆化」・「グローバル化」／これに限らず、テーマ史による過去の考察を企図／この背景には、通史は発展段階や先進・後進の発想がつきまといやすいことへの配慮がある

→通史は不要か／必要だとすればどのように発想するべきか

【付記】

・明日までに、Waseda Moodleにて講義記録の提出を求める。／今回は本時間での議論を含めて、ここまでの講義の感想を書いてください。